

永田町新潮流 平沢勝栄

俺がやらねば



与野党は、激しく政
策論争を続けている



私は改正絶対反対を主張する
ある議員に「象徴天皇制は
どうするの？」と聞いたこ
とがある。答えは「天皇制は
民営化すべし」だった。
どういう意味かは不明だっ
たが、いずれにしろ、本当に
「民営化」を考えているのな
ら、憲法改正を主張すべきで
はないか。

国会の憲法審査会は、各党
が党の改憲案を持ち寄り、意
見を闘わせる場である。その
運営について与党は「度量」
を、野党は「良識」を示すこ
とが期待されている。

その審査会の発足時に、少
数会派も質問時間などで他の
会派と同じく扱
われることに決
まった。それを
受け、今日まで
少数会派も反対
派の意見も最大
限に尊重されてきた。

そのこと自体は歓迎すべき
ことだが、同時に審査会の審
議が前に進まなくなってしまう
ことも、事実である。
審査会の運営については今
後、国民の納得のいく形に見

前に進まない憲法審査会 国民が納得できる運営を

言うよ」と言われた。

「憲法改正を訴えれば、国
民の反感で選挙には絶対に勝
てない」と思ったのだらう。
しかし、今や状況は大きく
変わった。

私は今回の選挙で憲法改正

参院選(21日投票)は最
終盤に入った。
これまで商店街や駅頭など
で多くの人と話をしてきた。
反応は悪くないが、中には
「他に良い政党がないから、
自民党に投票する」という人
もいた。「消極的支持」とい
うことだろう。

選挙の争点の1つは「政治
の安定」だ。平成になって以
後、安倍晋三首相は18人目の
首相である。今、久しぶりに
安定した政権ができたこと
で、日本、そして安倍首相の
国際社会における発言力や存
在感は急速に高まる一方だ。

最近の半導体素材の対韓輸
出管理の見直しは、あくま
で、安全保障上を目的とした
ものだ。強力かつ安定した安
倍政権だからこそ、取り得た
政策といえる。

日本に対して、これまで韓
国は「やりたい放題」だった

の必要性も訴えているが、反
応はすこぶる良い。国会では
一部の野党会派が、相変わらず
「改正絶対反対」を唱えて
いる。しかし、その彼らも現
行憲法の全てに賛成している
わけではない。

直すべく、各会派間で検討す
る必要があるらう。

いずれにしろ、憲法改正の
最終判断は国民が行う。多く
の国民は早く判断に参加した
いと強く待ち望んでいるので
はないだろうか。

(自民党衆院議員)